



そばグルメスタンプラリー
 が始まります

9月19日から25日までの7日間の日程で開催される「日本そば博覧会 in 十勝新得町」24、25日「しんとく新そば祭り」が併催されます。開催まであと2ヶ月ほどとなり、いよいよ7月下旬からキックオフイベント「そばグルメスタンプラリー」が始まります。

ルールは簡単。スタンプラリー参加店で指定するそばのメニューを注文し、応募用紙にスタンプをもらっただけ。スタンプを2個以上集めて応募し、湯宿くったり温泉レイク・インのペア宿泊券など豪華景品をゲットしましょう。



カリカリそば 居酒屋もり



そばさらだ 新得地鶏本家 壺杯家



そば餃子入り新得地鶏の鍋焼き湯宿くったり温泉レイク・イン



ガトー・ド・サラザン 共働学舎新得農場ミントル



復刻そばがきぜんざい そば処 みなとや

参加店は11店舗



そばガレット Be wild



そばの実シュークリーム 十勝サホロリゾートホテル



そばサラダ げんや



そばパスタ 小さな森のレストラン ポパイ



そばココアフロート おさんぼカフェ



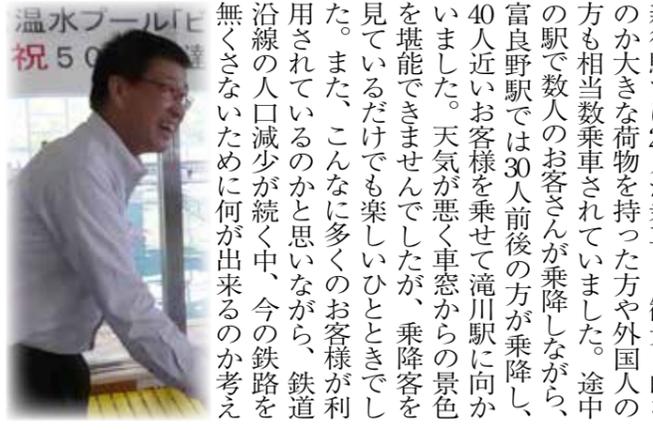
そばソフトクリーム 新得そばの館

町長室から
 こんにちは

新得町長 浜田正利

町民の皆さんにも相当関係あると思うことで、私自身が最近体験したことから2点報告します。

1点目は、先日、私用で岩見沢市に行くことになったため、新得駅発の普通列車に乗り富良野、滝川経由で岩見沢に行くことになりました。新聞報道でJR北海道の路線ごとの収支が掲載され、根室本線の実情はどうかとの思いから列車に乗りしたのですが、新得駅では29人が乗車し、観光目的なのか大きな荷物を持った方や外国人の方も相当数乗車されていました。途中の駅で数人のお客さんが乗降しながら、富良野駅では30人前後の方が乗降し、40人近いお客様を乗せて滝川駅に向かいました。天気が悪く車窓からの景色を堪能できませんでした。乗降客を見ているだけでも楽しいひとときでした。また、こんなに多くのお客様が利用されているのかと思いつきながら、鉄道沿線の人口減少が続く中、今の鉄道を無くさないために何ができるのか考え



てしまいました。

2点目は、新得駅から国道に向かう駅前通りに「街中サロンふらっと」が、お店を構えています。先日「ふらっと」の関係者の方から「誰もが利用できる場所としてオープンしてから、多くのボランティアの支えで運営を続け6年経ったこと」、「昼食は水々金の3日間提供していること」、「手の込んだ料理が評判で固定客もいること」等々のお話があり、また、普段利用されている方からは「食事が安くて美味しい」とのお話もあつたことから、お邪魔したところ20人近くの方が楽しそうに過ごしておられました。皆さんも散歩がてら覗いてみてはいかがでしょう？美味しい食事と笑顔のスタッフ一同が迎えてくれますよ。

6月13日から長雨、日照不足、低温の日々が続き、日増しに経済活動全般に懸念が広がり始めていました。やっと、27日から青空が戻ってきましたが、今後は天候に恵まれ、これらの懸念がなくなることを切に願うところです。なお、6月の日照時間は平年の約80%の113時間でした。13日から26日に限れば平年の約2%で、約2時間しか太陽が見られませんでした。一方、降水量は平年の2.7倍の220ミリ、平均気温は平年より1度低い14.9度でした。また、7月1日に農作物の作況調査が行われ、全般的に1日から5日の生育の遅れの報告がありました。今後の天候にもよりますがあまり心配はいらないとのことでした。事故の無い実りある出来秋を改めて願うところです。

短歌

新得短歌会

雨降りて草と戦うくり返し
 タぐれ仰ぎ我も遅しく
 小野 恭子

テレビでは馴染みの菅井貴子氏の
 講演聞きつわれりフレッシュ
 高橋 幸子

やがてはと訪れて来る節目なむ
 嗚みしめて居む平常心で
 小関 白潮

梅に風むら雲隠れにすみ染めの
 とける残雪神の山なみ
 荒木 風月

山羊放し柵のまわりを紅鶏の
 暮らす人の手そっと触れたり
 中井由利子

オダツシユのふもとに集い生徒唱う
 高等支援の新しい校歌
 菊地 康雄

ひっそりとことば呑み込みまあいや
 言うも人生言わぬも人生
 岡田御狸裸

水無月は「みずの月」との由来あり
 北の梅雨には寒かり「火の月」
 樋口かおり

俳句

新得俳句同好会

夏の夜の老妻の愚痴おさまらず
 片桐 波月

老いてゆくことさびしさ牡丹散る
 八木 育子

廢屋に今が盛りと花李
 月井 愁峰

前庭の落悠然と雨を受け
 斎藤 青苔

能書きの通りに育つ豌豆まめ
 高橋 民女

辺り着く天橋五夕茜
 大崎かずお

英霊のエゾ蟬となる旭川
 袴田ゆき男

母の背に戻ってゐたり昼寝覚め
 中島 土方

しんとく
 歴史歩
 散
 No.10
 郷土の歴史を
 新得町郷土研究会が
 ご紹介します
 一緒に
 歴史の散歩に
 出掛けましょう

松浦武四郎野宿之地

新得町字新内にある佐幌ダムの西の道路を北へ5分ほど進んだところの佐幌川べりに、松浦武四郎野宿之地と刻んだ石碑が建っています。箱館奉行所から東西蝦夷山川地理取調の命を受けた幕末の探検家の松浦武四郎の一行が、安政5(1858)年3月13日(新暦の4月26日)、狩勝味の北を上川側から十勝側へ山越えして宿泊をした場所です。

10人のアイヌの人たちが道案内や荷物持ちを務め、盗賊の捕縛の命を受けていた箱館奉行所石狩(石狩市) 詰めの役人の飯田豊之助が同行しました。武四郎にとっては6回目の北海道調査であり、十勝へ入ったのは4回目のことでした。



松浦武四郎野宿之地の石碑

佐幌川は川幅が7、8間(1間は約1.8m)、平盤一枚岩で急流、左岸に行くにも切り立っていて進むことができず、やむなく佐幌川の右岸に渡り、大笹原を3、4丁(1丁は約10m)分け入り、トドマツの多いこの地に野宿したとあります。その後、武四郎たち一行は、佐幌川をパンケシントク川の合流点まで下り、ここから十勝川へ出て清水町人舞、芽室町などを経て豊頃町大津に出ています。昭和62(1987)年7月27日、春木喜三郎さんの道案内で新得町郷土研究会のメンバー7人が現地調査をして、川底が一枚岩で武四郎の記録と合致するこの場所を野宿の地と特定しました。そして、同年11月2日、新得町と新得町郷土研究会により、松浦武四郎野宿之地の石碑と林道沿いの字新内西6線185番地に由来を記した銘板を立てました。